



特定非営利活動法人

発行：2014年11月17日

発行責任者：飯沼 一宇

仙台市青葉区中央2-7-30角川ビル402

子どもの村東北

News Letter Vol.8

子どもの村東北、開村迫る！



2011年 3月

東日本大震災

2011年 6月

子どもの村福岡が被災地を訪問

2011年11月

「SOS 子どもの村情報センター」設置

2012年 6月

「NPO 法人子どもの村東北」設立

2014年 3月

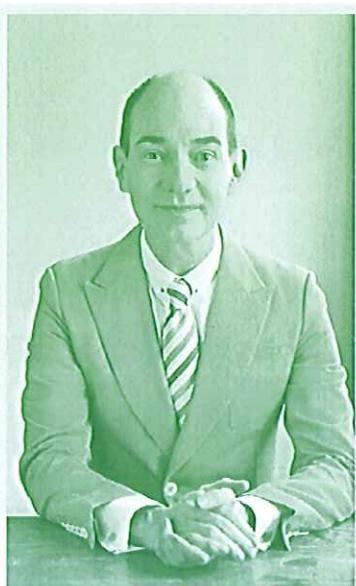
「子どもの村東北」起工式

東日本大震災によって、親を失った子どもたちは1,755名、そのうち両親を失った子どもも242名にも及びました（2014年3月）。その子どもたちの心のケアや長期的視点からの養育が大きな課題となりました。2011年6月、SOS子どもの村インターナショナルの示唆もあって、子どもの村福岡がはじめて被災地を訪問したことをきっかけとして、子どもの村東北の設立について、福岡の経験を活かしながらの取り組みが始まりました。そして大震災から3年を経て、今年の4月仙台市太白区茂庭台で建設が始まった「子どもの村東北」は、東北のみならず全国的な支援協力によって、10月に竣工、いよいよこの12月に開村を迎える運びとなりました。

この間に皆様からお寄せいただいたご理解とご支援に心から感謝申し上げます。開村後は、運営体制の充実を図りながら所期の目的を実現すべく全力を投入して参りますことをお約束します。尚、開村後に始まる村での生活にかかる運営資金や、開村後2年以内の着工を目指している家族の家2棟を建設する第2期工事に向けての建設資金につきまして、子どもの村東北としましては、より一層広く社会に協力・支援の呼びかけをしていく計画です。どうか皆様方からも更にお力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。



◆応援メッセージ



～開村の日が待ち遠しい～

いろいろな事情で家族と暮らせなくなった子どもたちのために、仙台市には「子どもの村東北」という新しいコミュニティが出来るという。聞いて最初に思い描いたのは、今後5年や10年の間、震災で一番大切なものを失った子どもたちが家庭的で小規模で、安心できる文字通り温かいホームで育ち、社会へと羽ばたいて行く姿であった。家族の家が数軒あれば、直ぐ隣にその家族を支え、地域との橋渡しにもなるスタッフのセンターハウスが控えている。

建てる以上に、ずっと維持していくためにどれだけの苦労があるだろうか、も想像する。少しづつ苦労を手分けして、たくさんの人々で村を盛り上げる。それがきっと村の外にいる我々の役目だと思う。子どもに思いを寄せる同時に、我々全員が生きているこの社会の未来のかたちを考えていこうという、熱い気持ちがこみ上がってくる。開村の日が待ち遠しい。

東京大学大学院教授 ロバート キャンベル (2014/10/07)

■ 竣工式を挙行

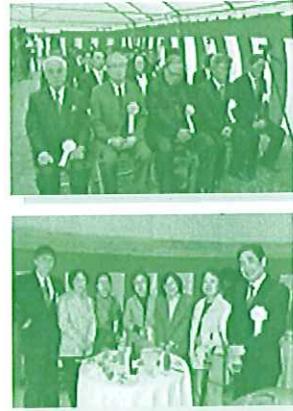
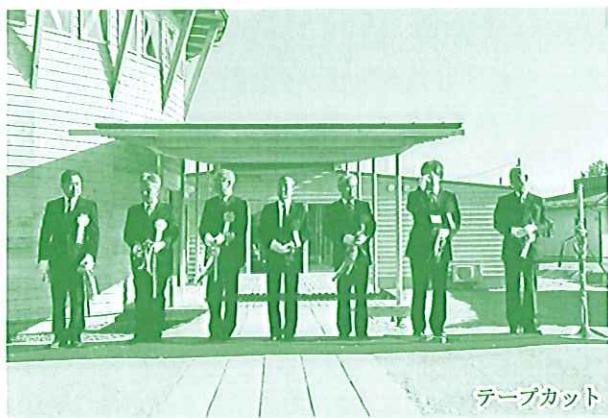
10月30日（木）午後、「子どもの村東北」の竣工式が、60名の参列者をお迎えして、仙台市太白区茂庭台の地で行われました。秋晴れの空のもと、青麻神社の鈴木雅香宮司を齋主に迎え、地権者である仙台市子供未来局、茂庭台地域、建設をご支援頂いた方々などをお招きし神事を執り行い、無事の工事完了に感謝し今後の事業の安寧を祈願しました。

その後は、センターハウス前においてテープカット、お客様に村をご案内して建物のお披露目をしたのち、竣工への感謝の気持ちをこめた直会（小宴）へと式は進められました。

直会は、多目的ホール（杜のホール）で開催され、施主として飯沼理事長の挨拶の後、ご来賓を代表してイケア・ジャパン株式会社の東日本子どもプロジェクトコーディネーターの北野陽子様からご祝辞を頂戴しました。さらに、飯沼理事長から株式会社松本純一郎設計事務所の松本代表取締役をはじめとする設計・管理会社及び施工会社の方々への御札を差し上げ、神酒拝戴（乾杯）へと移りました。

お開きまでのしばしの時間、建設の開始から竣工に至るまでの思い出話に花を咲かせたり、地域の方々の期待をお伺いしたりのなごやかな時間を過ごすことができました。

建設にあたって、様々な形で「子どもの村東北」にご支援していただいた皆様に、心から感謝申し上げるとともに、引き続く第2期工事につきましても、さらなるお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



■植樹祭、ごくろうさまでした

11月9日（日）、あいにくの曇り空の下ではありましたが、植樹祭りが行われました。『東北の農家にある「いぐね」「屋敷林」をイメージした植栽』が基本的な考えで企画しました。

飯沼理事長の主催者挨拶の後、庭正庭芸研究所の菊池代表取締役からの作業方法説明があり、続いて飯沼理事長、岩城常務理事、茂庭台学区町内会連合会の山口会長・佐野副会長を加えてシンボルツリー（もみの木）の記念植樹を行いました。

午後の2時まで行われた作業には、たくさんの設計・施工会社関係の職員及び地域のみなさんにご参加いただき、つづじ、どうだん、やまぼうし、くり、なつめ、むくげ等の他、500m²の芝生が植栽されました。これらの植えられた樹木が、村で生活する子どもとともに大きく育つことを祈念しています。ご協力ありがとうございました。



■開村に向け、村のスタッフ体制づくり進む

12月に迫った開村に向かって村の体制づくりが急ピッチで進んでいます。10月に子どもの村東北の初代村長に今野理事が就任することが決定しました。今野村長は、現在、開村準備の中心となって活動しています。また、9月に2名採用された育親アシスタントは現在、法人事務局で専門研修を受けながら入村の日を待っています。子どもたちと生活をする育親については現在2組が内定、12月から入村します。さらに1組について、随時募集し選考が進められています。

このように村のスタッフ体制はほぼ出来上がり、開村が待ち遠しい雰囲気となっています。なお、子どもサポートグループの支援・協力のもと、村長をトップとする「開村準備チーム」が結成されており、随時ミーティングを持ちながら開村を万全な状態で迎えるべく鋭意、準備に取り組んでいます。

■子どもの村東北公開講座、研修の実施状況



8月30日（土）「発達障害、被虐待の子どもたちをどう養育するか」をテーマに山形大学医学部教授の横山浩之氏を迎えて、養育者の心の健康・疲労度を改善できる「PTペアレント・トレーニング」について、具体的な事例をもとに分かり易くお話を頂きました。PTとは、行動療法の原理に基づいたもので、例えば①子どもの増やしたい行動に対しては養育者や支援者が相手をする・褒める。②減らしたい行動には、相手をしないが努力した行動は褒める。③絶対に許せない行動はすぐに止める。など、子どもたちへの理解を深め、かかわり方を身につけることで、よりよい子育てができるようになることを目指しているものです。

研修の後半は、参加者の皆さんとの恒例のグループワークを行いました。子どもとの様々なエピソードを共有できる有意義な時間となりました。

9月7日（日）には、甲南大学文学部教授の森茂起氏による、「私は育てられた、私は育てる」をテーマにした公開講座が開かれました。31名の参加者は、「ファミリー・ペタゴギーにおける自己史の意味」と題する講演と、その後の自己史を整理するグループワークに積極的に取り組み、会場は和気あいあいとしたムードに包まれながらも、充実した学習の時間を過ごすことができたことが、アンケートからも読み取れました。参加者は、森教授の指導の下で、過去を振り返り、新しいことを発見するというワークをとおして、人に物を話すことの意義と困難を学びました。この体験は、子どもの話に耳を傾けたり、気持ちを汲もうしたりする場面での心構えを作ってくれるとのことです。



■ SOS子どもの村 JAPANへの合流、先送りに

日本における「SOS子どもの村」は、昨年来、「SOS子どもの村インターナショナル」に加盟するため、法人格を有する一つの組織に統合する準備を進めてきました。

これまで「認定NPO法人子どもの村福岡」が、本年2月「認定NPO法人SOS子どもの村JAPAN」に名称変更、7月には「NPO法人日本SOS子どもの村」と合流しました。

これに続いて「NPO法人子どもの村東北」は、臨時総会を開催して法人格を解消（法人としての組織を解散）し11月に「SOS子どもの村JAPAN」に合流するステップで準備を進めてきました。

しかしながらこの過程で、「SOS子どもの村JAPAN」の所轄官庁である福岡市よりこの方式では、事実上認定NPO法人（SOS子どもの村JAPAN）と認定でないNPO法人（子どもの村東北）の合併と見做されるおそれがあるとの見解が示され、その場合、SOS子どもの村JAPANの認定が取り消されることになるとの指摘がありました。

このため、JAPANと子どもの村東北は対応を協議した結果、急ぎ合流することで、認定NPO法人の資格を失うことは得策でないと判断、子どもの村東北の合流は適切な時期を待つことになりました。

これまで国際組織加盟についての取り組みを隨時お知らせしていましたが、それが大きく変わることになりましたことについて皆様のご理解をいただきますようお願いいたします。

なお今後、合流、加盟については適切な方法を検討し可能な限り早期に実現を図る考えです。

○○○多くの企業・市民の皆さんに一層のご支援をお願いいたします○○○

■支援方法1：支援会員として継続的な支援寄付により支えてください。

◎個人の方

寄付額は任意ですが、年間3,000円以上でお願い出来れば幸いです。

◎企業・団体の方

寄付額は任意ですが、年間30,000円以上でお願い出来れば幸いです。

■支援方法2：ご寄付をお願いいたします。

金額は問いません。いつでもお受けいたします。

■支援方法3：募金箱設置をお願いします！

幅広い人々に支えてもらうために店頭や受付、待合室、休憩室等にリーフレットとともに置かせてください。約縦10センチ×横10センチ×高さ20センチの募金箱です。ご連絡をお待ちしております。

◆ご支援いただいた企業・団体のみなさま（2014年7月～2014年10月末）

南永田団地わんぱく子ども会、Freundeskreis Tsunami-Waisen KIBOU e.V、Ben's Glass Designs、仙台市南小泉小学校昭和28年卒業高橋学級同窓会一同、g-hair 下園弘文、奏野ヨガの会、サンワセッケイ、カ、石巻市保育所研修会、石井小児科石井アケミ、日本聖公会横浜教区東神宣教懇談会、株式会社アイシック、株式会社パールライス宮城、ブラックバード、焼肉八兆、SMB C日興証券株式会社仙台支店、一般社団法人日本小児科医会、アストラゼネカ株式会社、株式会社オンワード樫山仙台支店、東北大学医学部平成4年卒業生ご一同、一般社団法人日本専門店協会、仙台萩ライオンズクラブ、長谷幼稚園保護者会、ギフィビコウセイビヨ、コマツ栃木株式会社、コマツ栃木株式会社社員一同、トットリフクインルーテルキ、サンエイシステム株式会社、宮城県遊技業協同組合、暖愛フロムシリコンバレー、光の家療育センター保護者会、社会福祉法人毛呂病院光の家療育センター、ILBS国際福祉協会、キメコミニンギョウカイ、NTT東日本、株式会社ささもと建設、株式会社佐浦「浦霞発、日本酒のチカラ」プロジェクト、東洋ワーク株式会社、青麻神社宮司鈴木雅香、株式会社パールライス宮城、子どもの村東北支援のためのCharity Concert一同、アサヒグループホールディングス株式会社、ザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント実行委員会

*敬称略・順不同

◆支援会員

*個人会員 487名

*団体会員 28企業・団体

2014年10月末現在

WEB & Facebook ヘアクセス ▷▷▷ URL <http://soscvtohoku.org/>
子どもの村の今をご覧ください ▷▷▷ Facebook <https://www.facebook.com/soscvtohoku>

特定非営利活動法人 子どもの村 東北

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 角川ビル402

TEL: 022-748-6936 FAX: 022-748-6931 E-mail: tohoku@soscvtj.org